

鶴岡首席交渉官によるぶら下がり記者会見の概要

日時：平成26年12月4日（木）09：38～09：45

場所：成田空港出発ロビー

【質疑応答】

（記者）

今回の会合の位置づけと、日本政府としての意気込み如何。

（鶴岡首席）

今回の首席交渉官会合は、北京で開催されたTPP首脳会合において、TPPをできる限り早期に決着させるべきという首脳の強い指示を受けて開催されるものである。日本政府としても、TPPを早期に決着させてアジア太平洋地域の繁栄の基礎をしっかりとつくろうと努力しているところである。いよいよ交渉も最終段階に入ってきて困難な課題が残されており、各国ともにそれぞれの国益を最大限に実現すべく精力的に交渉に臨んでくると思っている。我が国も、国会決議もあり、国益を最大限に実現することを目指して、最終段階でこれまでの努力が結実するよう、できるだけ成果の上がる交渉になるよう臨みたいと思う。今回、1週間以上の期間をかけて、これまでの成果をもとに最終的な取りまとめに向けて、各国それぞれが交渉に真剣に臨むと思っており、その結果を受けて今後のTPPの取りまとめに向けた勢いが出てくるのか、その点を我々は注目して交渉に臨みたいと思う。

（記者）

難しい課題が残っているとのことだが、今回は主にこういったテーマが議論の中心になりそうか。

（鶴岡首席）

2国間の物品関係の交渉を、いよいよ最終局面に差し掛かって取りまとめることが1つの大きな課題になっている。その中には日米の交渉もあれば、他の国との交渉も残されている。また、TPPの将来に向けた枠組みづくりという点においては、今後の日本の経済にとっても大きな成果につながる知的財産の制度の立上げの問題とか、あるいは国有企業の規律をこの地域においてどう確立させていくかという、残された困難な課題はまだまだあるが、我が国としてはできる限り、日本にとってもこの地域にとっても望ましい制度が確立できるように努力したいと思う。

（記者）

早期の妥結を目指してということだが、政府としてはどれくらいの時期的な目途を念頭に交渉に臨むのか。

(鶴岡首席)

これは日本が決められることではないので、各国がともに早期の妥結を目指してどれだけ真剣に交渉に臨み、必要な柔軟性を発揮するかが一番のカギだと思う。北京での首脳会合では各国首脳から、それぞれ各国の立場の表明、そしてアジア太平洋地域の繁栄のため、できる限り早期にＴＰＰを妥結すべきという見解が示されているので、我々もその考え方に従って、そして安倍総理自身が明確にされておられる早期の妥結という課題をできるだけ早く実現する努力をしたいと思う。そのためには、各国がそれぞれお互いの立場を踏まえつつも、大きな成果を目指した柔軟性を発揮して、具体的な結果を実現するという姿勢がどれだけ具体的な交渉方針に示されるかが課題になると思う。

(記者)

今回の首席交渉官会合を経ることによって、次は閣僚会合というのも１つの目標とみてよいか。

(鶴岡首席)

首席交渉官は事務方の最高責任者ではあるが、ＴＰＰ交渉には政治的に重要な課題も多く含まれているので、事務方だけで交渉を決着させるということは必ずしも適切でないし、可能でもないと思う。ただ、事務方で交渉の詰めをしっかりと行わないことには政治的な決断も容易ではないので、まずは事務方でどこまで政治判断を仰ぐところの整理がつけられるかということ今回やろうと思っている。したがって、その先に整理がしっかりできて政治的な決断を求めることが可能になるような条件が整えば、次はそういった政治的な決断を仰ぐ機会をどう設定するかが課題になると思う。ただ、まだまだ課題は残されているので、今回の首席交渉官会合が行われた後に、直ちにそういった政治決断を仰ぐような状況になるとは思っていない。

(以上)